

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 2 月 14 日作成)

| | | |
|---------------------|--|-------------|
| 委員会名 | 都市景観小委員会 | 主 査 名：西村 幸夫 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 都市計画委員会 | 委員長名：佐藤 滋 |
| 設置期間 | 2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月 | |
| 設置目的 各年度活動計画 | 都市景観に関わる議論を多様なアプローチから喚起し、もって良好な都市景観の実現をめざす。 | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 西村幸夫(東京大学)、和田幸信(足利工業大学)、浅野聡(三重大学)、鷗心治(山口大学)、浦口醇二(かいアソシエイツ)、奥俊信(北海道大学)、熊野稔(徳山工業高等専門学校)、倉田直道(工学院大学)、後藤春彦(早稲田大学)、小林敬一(東北芸術工科大学)、中林浩(平安女学院大学)、野中勝利(筑波大学)、宮脇勝(千葉大学)、山中知彦(都市建築研究所)、宇於崎勝也(日本大学) | |
| 設置WG (WG名:目的) | 都市景観研究WG(2004年3月廃止) 都市景観に関する多様なアプローチを若手研究者を中心として議論、検討する。 | |
| 2003年度予算 | 260,000 円 | |

| 項 目 | 自己評価 |
|-----------------------|--|
| 委員会活動状況 (開催日・参加人数) | 9月4日(15名)2003年景観ルックイン報告、2004年度景観ルックイン企画 12月1日(9名)2003年度大会行事反省、2004年度研究協議会の検討 2月18日(未定)WG開催 2004年度研究協議会の検討 3月8日(未定)2004年度研究協議会の検討 |
| 得られた成果 | (成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 前年度最終小委員会(2003年1月6日)の議論を経て、年度内の活動方針について議論し、大会期間中に「PD 景観管理とまちづくりのデザイン - 生活景からの研究展望と政策提言 -」を開催した。また、例年どおり「都市景観ルックイン」を伊勢河原町で開催した。第2回小委員会は景観ルックイン開催時に現地で行った。なお、PD資料集は250部を作成し、初日に完売している。 今後も次年度の研究協議会に向けて、WG、小委員会各1回を開催し、開催概要、資料づくりについての議論を行う。 本年度の議論は、2000年度研究協議会「まちづくりのシナリオ・メイキング - 「生活景」からの地域環境づくり」から続くものであり、生活景向上の実践的手がかりを明確にし、新たな景観制度への要望を抽出することをねらいとした。適切なパネリストの選択と、その発言から目的はほぼ達成された。 研究協議会・資料集については学術的価値も十分に判断されるが、広く社会に公表するに至っておらず、課題として残された。 |
| 目標の達成度 | (当初の活動計画と得られた成果との関係) 2000年度以降「生活景」に焦点をあてて議論を深めてきた。何気ない生活空間・生産空間が形成する景観のよさを再認識する機会を得られたものと考えられる。そのため、活動計画はほぼ満足する成果によって終えたと判断される。 なお、次年度には「景観法」などの成立を受けて都市景観を取り巻く環境が大きく転換するものと考えられる。ここに時機を得て研究協議会を主催することで、日本建築学会の景観に対する姿勢を示すことを目標に掲げている。 |
| その他評価すべき事項 | 10年を超えて継続している「景観ルックイン」は大会会場から至近の景観のフィールドを実際訪ね、ミニシンポジウムを開催するなど地元の人々、学生を巻き込んで具体の景観の中でその向上策を探る試みと位置づけている。地元の啓発。学生の意識向上にも寄与しており評価できると考える。 |